

Shin Club 34

㈱辰 通信 Vol.34
2003年1月
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-24-4-7f
Phone: 03-3486-1570 Fax: 03-3486-1450

今月のトーク 「『普通』をよりよく」

今月は、弊社が1月にお引渡しをする東麻布集合住宅の設計を担当された谷内田章夫氏にお話を伺いました。谷内田氏は、いわゆる「デザイナーズマンション」と呼ばれる都心の新しい形の賃貸集合住宅の設計を数多く手がけられています。

今、デザイナーズマンションというものが人気を博しています。画一的にしか市場に供給されてこなかった賃貸住宅市場にやっと住まい手の要求を満たすものが出てきたという感じですね。

谷内田:「デザイナーズマンション」という言葉は、いろいろな方が都合のよいように使われていて、定義があいまいで、誤解される場合が多く、しっくりきません。

建築のデザインに必要なことは、建築家の個性や主義主張を出すことではなく、住まい手の個性をいかに引き出すかということです。そういった意味で個性的であるべきだと考えています。理念の押し付けや表現行為としてではなく、与えられた環境条件をいかに有効に生かして建築の中に取り入れ、住まい手の自由を獲得するかが大切であり、その方法を発見することが建築家の役割だと思っています。自分はその中の居住者として、この場所でこんなことできたらいいなという思いを膨らませながらデザインします。

また、オーナーや管理者の立場に立って、長い間商品として競争力に耐える資産価値のある建物を提供することも大切です。しかも今の市場だけではなく、20年ぐらい後までを想定して考えていかなくてはなりません。少し古くなっても、資産価値のある、リフォームしても住みたいという魅力のある建物です。そういった意味では、施工会社の技術力も相応に必要となると思います。

公団もSOHO住宅など消費者のニーズにあった多様性のある住宅の供給に乗り出し、各地でいろいろなプロジェクトが展開されています。

谷内田:公共建築については、バブル経済以降日本の建築も豊かになってきて、その後ハコモノ行政もあつたりして、それなりに以前より質の高いものが、(結果としてどうなったかは別の話ですが)登場しました。

しかし、住まいについてはなおざりでした。私はもっと身近な領域においてデザインの質が高くなってはいけないと思いました。戸建て住宅だけではなく、民間アパートという、ある意味で泥臭く地味なところにおいても、もうちょっと質の高いものになってほしいと思っていました。

ところがディベロッパーやハウスメーカーなどは、マーケットに対して横並びの商品しか供給してこなかったのが現状でした。公団や公共住宅も含め、都心居住で重要なはずの集合住宅が画一的で選択の幅が狭いと感じました。

それで、建築家のデザインをもう少し一般の人たちに理解してもらいたい、気軽にとりいれてほしいと思い、実際のニーズに対応できるものを考え、提供してきたつもりです。

そういう中で似たような建物が出てきましたね。
谷内田:分譲マンションでも、メゾネットやフリープランなどが出て



谷内田章夫氏 事務所 (ノワークショップ) にて

きた動きを見て、少しずつ私たちがやってきたことに市場でも何らかの反応があったのではないかと思います。

ある意味では、他とは違うということよりも、建築全体に刺激を与える方がより重要であるということですね。

谷内田:大げさに言えば、「住まい」というのは1つの文化を集約したものです。それは絶えず新しく良いものを目指すべきで、そうでなければよくなりません。お互いに刺激しながら、いろいろなアイデアを出しあってよい循環となったほうがよいと考えます。だから自分ですることはすべてオープンにしかまわらないと思います。「これは自分のスタイルだからまねするな」ということでなく、全体としてよくしていく限りにおいて、模倣でも何でもしていただければそれでいいと思います。

ただ、部分的な形だけをとりあげ、それも「個性的」な建物であるかのようにされるとがっかりしますけど、同時に全体としてレベルアップに寄与することが伴えばいいと思います。

施工会社も、これまでは「こういうやり方でこうすればいい」という方法にのっとってやってきた面もあるかと思いますが、より新しいデザインで、より合理的なものをどんどん使うようになれば、毎回違う「新しいことをやる、新しい試みをするのが当たり前」というスタンスが普通になってくるのかもしれないと感じられます。
谷内田:そういう意味では設計事務所の情報交換だけでなく、施工会社とも緊密な情報交換を行っていかないと、毎回現場が良くなるし、出来上がってくるもののレベルが上がってくると思いますね。工程面、安全面なども研究しながらお互いに刺激していくべきですね。

個性的な現場をいくつも経験されているからこそ言えることですね。

谷内田:一見単純そうでも面倒くさい図面につきあってくださる数少ない施工会社さん、というか根性のあるいくつかの施工会社さんと今までつきあってきて本当に良かったなと思います。それからクライアントや設計者とのような形でコミュニケーションを取ろうという姿勢は非常にいいことだと思います。やっぱりコミュニケーションをいかに円滑にやっていくかが、気持ちよく仕事をしていくことになるのではないかと思います。

ありがとうございます。普通の建物が良くなっていくことが大事であるという視点は私たちも大事にしていきたいと考えています。今後ともよろしく願います。

『新春に寄せて』

株式会社 辰 代表取締役社長
森村 和 男



新年あけましておめでとうございます。
日頃、私共の情報誌「Shin Club」をご愛読頂き誠にありがとうございます。お蔭様で本誌も34号を発行するに至りました。これも偏に皆様方のご支援、ご協力の賜物と感謝いたしております。さて、国民の期待を背負って発足した現内閣でしたが、景気は依然改善の見通しさえ立たず、もはや他力本願ではなく、自力で道を切り拓く事が求められています。大量消費の時代は去り、当然のごとく「質の高いもの」「付加価値のあるもの」が要求されるようになるのではないのでしょうか。私共は敢えてこのような状況を「大好機時代到来!」と位置付け、お客様の身になってその心にいつも満足を与えることを目標にまいります。生涯学習企業で自己研鑽を続け、正直に、且つ力強く邁進する所存です。本年も引き続き皆様のご支援、ご指導をいただけますよう、お願い申し上げます。

TOPICS

「ユニブル武蔵小金井 地鎮祭」 (12月4日) 小金井市

構造:RC造、地上9階
用途:共同住宅
設計:松隈和助
㈱マツクマ設計事務所
完成予定:2003年11月



「経堂のビル(改修)」 (12月16日) 世田谷区

店舗・共同住宅の、エントランスを含めた共用部分の改修工事。加えて、大きなさび塗装のオブジェが建物裏手に出現しました。この建物の改修にあたって、設計の桑原聡氏は、建物裏手に茂っていた植栽が採光面でも通風の面でも問題だと感じ、思い切って植栽を排除、代わりに大きな碎石を敷き詰め、さび塗装の鉄板のオブジェをいくつか配置しました。古いアパートが隣接し、通りからは死角になっている裏庭が明るくなり、夜も一風変わった景色を生み出すこととなりました。防犯上も思わぬメリットを引き出しました。碎石は足を踏み入ると大きな音が立ち、とても歩きにくいのです。オブジェは知らない人が見れば、何か不思議な仕掛けがしてあるようにも思えます。ローコストでも、街の片隅の空間がこのように生き返るのを見せていただき、もっといろんな場所で、アートが効果的に利用される場面があってもいいと感じました。



「東麻布集合住宅 お引渡し」 (1月20日予定) 港区

構造:RC造、地上7階
用途:共同住宅
設計:谷内田章夫ノワークショップ
内外装とも打放しコンクリート。建物の裏側は斜面になっており、その豊かな植栽を生かすため、また各室より東京タワーが見えるように、あえて北側に開口部を大きく取っています。各階それぞれの景色が楽しめる、都心ならではの賃貸住宅となっています。



INFORMATION

・見学会のご案内
東麻布集合住宅「TorreVista(トレヴィスタ)」の見学会が行われますので、ぜひお出かけください。

日時:2003年1月18日(土)13:00~17:00
交通:大江戸線 赤羽橋より徒歩5分
日比谷線 神谷町駅より徒歩10分
南北線 麻布十番駅より徒歩7分

住所:港区東麻布2丁目6-4
主要用途:共同住宅、5戸+駐車場
用途地域:近隣商業地域 防火指定:準防火地域
構造・工法:RC・ラーメン構造 規模:地上7階
募集:タカギプランニングオフィス

